

「ありがとう」のたった一言に 気持ちを込めて

株式会社総合開発設計社 代表取締役社長

有限会社総合教育 代表取締役社長

関塾信越地区本部 代表

土井悦代氏

父である先代社長の急逝により、心の準備もできぬまま測量・設計を主要事業とする株式会社総合開発設計社を継承してから20年超。そして、学習塾「関塾スクール中御所校」開校から17年。近年ではラジオ出演や講演会等でも活躍する土井悦代代表に、多忙を極める日々を笑顔でパワフルに過ごすためのコツを尋ねた。



■代表とは最終責任を負う者である

父が「株式会社総合開発設計社」代表を務めていた頃、国税局に家宅捜査を受けました。私がちょうど春休みで実家に帰省していた日の早朝のことです。当時、父が意図的に数字をごまかしていたわけではありませんでしたが、全責任は代表である父にあります。事情も言い訳も通用しない、例外なしの厳しさがあると知りました。



■上に立つ者は多弁である必要はない

これまでに先輩経営者の方々にお会いする機会をいただき、気付いたことがあります。それは「上に立つ者は多くを語る必要はない」ということです。私自身は、スタッフや塾生たちとの対話によるコミュニケーションを重視していますし、時に厳しく叱咤激励することもあります。でも、経営者としての私が個人的にいいな、と感じたのは、「ありがとう、ご苦労様」という感謝・労いの言葉と「今日、土井さんとご一緒させてもらって良かった」という明るく前向きな気持ちにさせてくれる温かな一言を掛けていただいた時でした。多くの語るより短くても気持ちを込める大切さを知ってからは、私もそれを意識して周囲に言葉をかけるようにしています。



■「借入は返す」がモチベーションに

正直にお答えしますが、会社経営のコツは特にないんです。代表がどう在るべきか、何をすべきかといったノウハウを教えてもらうことなく、事前準備をする間もなく代表になってしまったからです。ですから、その時にやるべきことをコツコツとやってきただけ、というのが実情です。そもそも父の会社を継いだ時も学習塾を始めた時も、当社はマイナスからのスタートでした。言ってしまえば日々苦しいんですけど(苦笑)。でも、「借入は返す」という大人の約束を守ることがモチベーションになっているのも確かです。そして、金銭面に限らず、ある程度の制約がある中で最善の策を考え実践することにより、経営者として心身が鍛え上げられるのだと思います。

土井悦代氏(どい・えつよ)

株式会社総合開発設計社 代表取締役社長

有限会社総合教育 代表取締役社長

関塾信越地区本部 代表

長野市出身、3姉妹の母。学習塾「関塾スクール中御所校、青空校」塾頭としてもおなじみ。



■「子どもは人類の宝もの」という信念

幼い頃から考える前に体が先に動いてしまうタイプだった私も、子育てを通じて不測の事態への対応力が養われ、事前準備の重要性を学びました。つまり、経験は人に変化と進化をもたらすのだと感じました。それでも、「子どもは人類の宝もの」という信念は、教育に携わる者の重要な軸として今後も私の中に在り続けるでしょう。

「人一倍我がままな私が望むことを考えれば、自然と相手の望んでいることが見えて来る」「120%の力で物事に臨む」「常に面白さを追求している」と、冗談を交えながら語ってくれた土井代表。驚くほどシンプルな考え方と嘘のない姿勢が、言葉のひとつ一つに表れていた。